

藤川太

家計株式会社化のススメ



講談社 α 新書

プラスアルファ

常州大学図書館
藏書章

家計株式会社化のススメ

藤川 太

生活デザイン株式会社代表取締役。ファイナンシャル・プランナー。慶應義塾大学大学院理工学研究科を修了後、自動車会社での研究者を経て、ファイナンシャル・プランナーに。「家計の見直し相談センター」で個人向け相談サービスを展開し、2001年の設立以来1万3000を超える世帯の家計の相談を受けてきた。

著書には「サラリーマンは2度破産する」(朝日新書)、「20代から始めるお金の設計」(だいわ文庫)、「小遣いは削るな!」(サンマーク出版)ほか多数。

●「家計の見直し相談センター」HP
<http://www.370415.com/>

講談社  新書 558-1 D



家計株式会社化のススメ

藤川 太 ©Futoshi Fujikawa 2011

2011年5月20日第1刷発行

- 発行者——— 鈴木 哲
発行所——— 株式会社 講談社
東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001
電話 出版部 (03)5395-3532
販売部 (03)5395-5817
業務部 (03)5395-3615
- デザイン——— 鈴木成一デザイン室
カバー印刷——— 共同印刷株式会社
印刷——— 慶昌堂印刷株式会社
製本——— 牧製本印刷株式会社
本文図版——— 朝日メディアインターナショナル株式会社
本文データ制作——— 講談社プリプレス管理部

定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料は小社負担にてお取り替えます。

なお、この本の内容についてのお問い合わせは生活文化第三出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

Printed in Japan

ISBN978-4-06-272707-5

●目次

第1章 サラリーマンを襲う「オーバーローン・クライシス」

- 「世の中が悪い」という現実 8
- 「普通生活」など高嶺の花 9
- 頑張っても残念なサラリーマン 11
- 「高級外車」は羨ましいか? 12
- 「貧乏同期」と「金持ち同期」 15
- 時代に合わない過大な負債 17
- 「買わない」という選択肢もある 18
- レバレッジ経営は悪魔のささやき 20
- 貧乏スパイラルに陥る人の共通点 21
- 「手取り収入」はもう増えない 23
- 人口減、増税、社会保険料増加 25
- 低コストライフスタイルの可能性 27
- 5世帯に1世帯が「貯蓄なし」 30
- 収入減少時代の貯蓄術 32
- 「ドーピング家計」の罨 33
- 「親子連結家計」の悲劇 35
- 「買い時」は「リスクが高い時」 37
- 住宅ローンが残らない買い方を 39

第2章

わが家の家計を「株式会社」に置き換える

- ポジティブイリュージョンの謎 42 「捨てる」べき4つの選択肢 49
- 年収800万円世帯が危ない 45 シングル・DINKSは高リスク 52
- 中途半端な小金持ちは高リスク 47
- ダウントレンドを受け入れる 58 ポイント①家計経営者同士の協力 70
- 生活を守るための家計改造計画 59 ポイント②経営計画を持つ 71
- 名字に「株式会社」をつけてみる 61 ポイント③相見積もりを取る 74
- 「企業理念」「経営計画」が必要 62 ポイント④決断と実行 75
- 企業は売り上げ、家計は収入 64 ポイント⑤節約より固定費から 77
- 家計にも変動費と固定費が 65 家計簿を家計の決算書に高める 78
- 利益を確保することが最も重要 65 優良家計の「3つの力」 80
- 家計簿を「決算書」にできるか 66 皆にYESと言わせる経営計画 83
- 仕事ができる人は家計を制する 67 トップダウンとボトムアップで 86

第3章 優良家計を築き上げる「家計の経営改革」

へたな「財テク」が家計を減ぼす 89 共働き家計のリスクとは 93

ギャンブルと詐欺的金融商品 90 連結決算と透明性がカギ 95

まずは「謝る」ことから始まる 100

「1万円」の持つ価値はバラバラ 101

なぜお金を貯めるのか? 102

本当の経済的自由人を目指す 105

あなたの心の中に住む貧乏神 106

①見栄っ張りな経営者はダメ 107

②断れない経営者はダメ 111

③先送りする経営者はダメ 114

④比較検討しない経営者はダメ 116

⑤近視眼的な経営者はダメ 118

⑥過去にこだわる経営者はダメ 121

⑦楽して儲けたい経営者はダメ 123

⑧聖域をつくる経営者はダメ 124

家計経営「体質強化の14法則」 127

①夢・目標を定める 129

②嫌なことから見つける 130

③コミュニケーションを密にする 132

④経営計画を策定する 133

⑤3つの利益創出法をフル活用 135

⑥「運用」から始めない 137

第4章 家計の経営リスクを見極める4つの指標

- ⑦支出方程式で無駄遣いをカット 138
- ⑧真つ先に必要経費を削らない 141
- ⑨固定費をオールリセットする 143
- ⑩やりくり費は予算の範囲内で 144
- ⑪「投資」と「消費」を区別する 146
- ⑫収入を増やす 149
- ⑬仕事以外の時間を無駄にしない 151
- ⑭短い時間で成果を出す 155
- ⑮自分の労働単価を上げる方法 154
- ⑯短い時間で成果を出す 155
- ⑰家計のリスクってなんだ？ 158
- ⑱借金・所得・長生きリスク 159
- ⑲「自己資本比率」をチェック 161
- ⑳借金の家計への負担度は？ 169
- ㉑収入ゼロでどれだけ持つか 172
- ㉒所得減少にどれだけ耐えられるか 177
- ㉓5カ年計画、10カ年計画を策定 181
- ㉔凡人が夢をかなえる方法 182
- ㉕家計の見直しは人生を変える 184

家計株式会社化のススメ

●目次

第1章 サラリーマンを襲う「オーバーローン・クライシス」

- 「世の中が悪い」という現実 8
- 「普通の生活」など高嶺の花 9
- 頑張っても残念なサラリーマン 11
- 「高級外車」は羨ましいか? 12
- 「貧乏同期」と「金持ち同期」 15
- 時代に合わない過大な負債 17
- 「買わない」という選択肢もある 18
- レバレッジ経営は悪魔のささやき 20
- 貧乏スパイラルに陥る人の共通点 21
- 「手取り収入」はもう増えない 23
- 人口減、増税、社会保険料増加 25
- 低コストライフスタイルの可能性 27
- 5世帯に1世帯が「貯蓄なし」 30
- 収入減少時代の貯蓄術 32
- 「ドーピング家計」の罨 33
- 「親子連結家計」の悲劇 35
- 「買い時」は「リスクが高い時」 37
- 住宅ローンが残らない買い方を 39

第2章

わが家の家計を「株式会社」に置き換える

- ポジティブイリュージョンの謎 42 「捨てる」べき4つの選択肢 49
- 年収800万円世帯が危ない 45 シングル・DINKSは高リスク 52
- 中途半端な小金持ちは高リスク 47
- ダウントレンドを受け入れる 58 ポイント①家計経営者同士の協力 70
- 生活を守るための家計改造計画 59 ポイント②経営計画を持つ 71
- 名字に「株式会社」をつけてみる 61 ポイント③相見積もりを取る 74
- 「企業理念」「経営計画」が必要 62 ポイント④決断と実行 75
- 企業は売り上げ、家計は収入 64 ポイント⑤節約より固定費から 77
- 家計にも変動費と固定費が 65 家計簿を家計の決算書に高める 78
- 利益を確保することが最も重要 65 優良家計の「3つの力」 80
- 家計簿を「決算書」にできるか 66 皆にYESと言わせる経営計画 83
- 仕事ができる人は家計を制する 67 トップダウンとボトムアップで 86

第3章 優良家計を築き上げる「家計の経営改革」

へたな「財テク」が家計を減ぼす 89 共働き家計のリスクとは 93

ギャンブルと詐欺的金融商品 90 連結決算と透明性がカギ 95

まずは「謝る」ことから始まる 100

「1万円」の持つ価値はバラバラ 101

なぜお金を貯めるのか? 102

本当の経済的自由人を目指す 105

あなたの心の中に住む貧乏神 106

①見栄っ張りな経営者はダメ 107

②断れない経営者はダメ 111

③先送りする経営者はダメ 114

④比較検討しない経営者はダメ 116

⑤近視眼的な経営者はダメ 118

⑥過去にこだわる経営者はダメ 121

⑦楽して儲けたい経営者はダメ 123

⑧聖域をつくる経営者はダメ 124

家計経営「体質強化の14法則」 127

①夢・目標を定める 129

②嫌なことから見つける 130

③コミュニケーションを密にする 132

④経営計画を策定する 133

⑤3つの利益創出法をフル活用 135

⑥「運用」から始めない 137

第4章 家計の経営リスクを見極める4つの指標

- ⑦支出方程式で無駄遣いをカット 138
- ⑧真つ先に必要経費を削らない 141
- ⑨固定費をオールリセットする 143
- ⑩やりくり費は予算の範囲内で 144
- ⑪「投資」と「消費」を区別する 146
- ⑫収入を増やす 149
- ⑬仕事以外の時間を無駄にしない 151
- ⑭短い時間で成果を出す 155
- ⑮自分の労働単価を上げる方法 154
- ⑯短い時間で成果を出す 155
- ⑰家計のリスクってなんだ？ 158
- ⑱借金・所得・長生きリスク 159
- ⑲「自己資本比率」をチェック 161
- ⑳借金の家計への負担度は？ 169
- ㉑収入ゼロでどれだけ持つか 172
- ㉒所得減少にどれだけ耐えられるか 177
- ㉓5カ年計画、10カ年計画を策定 181
- ㉔凡人が夢をかなえる方法 182
- ㉕家計の見直しは人生を変える 184

第1章 サラリーマンを襲う「オーバーローン・クライシス」

「世の中が悪い」という現実

頑張っても報われない時代——と言われるようになって、ずいぶん経ちました。

自分是一所懸命頑張っている。残業だって、ほかのだれよりもこなしている。でも、給料はまったく上がらない。なぜ？

そう思いながら、悶々もんもんとして毎日を過ごしている人が大勢います。

なぜ、頑張っても報われないのでしょうか。その理由は簡単です。

「世の中が悪いから」

こう言ってしまうと身も蓋かたもないのですが、これは厳然たる事実です。じつは、この点をまず認識しておいたほうが、頑張っているのにやることなすことうまくいかない「残念なサラリーマン」状態から脱出するべく、間違った習慣を改める近道になります。

さまざまな数字を見れば、なぜ「世の中が悪い」と言えるのかは一目瞭然いちもくりようぜんです。

まず人口。日本が高度経済成長期にあったころは、人口構成を表す「人口ピラミッド」の形が綺麗な富士山型をしていました。つまり、若年層がとて多く、高齢者になるほど人口が減っていくという形です。このような人口ピラミッドの下では、大勢の若年齢層の人たちが少ない高齢者を支えればよいので、社会保障負担もきわめて軽く済みました。

また、富士山型の人口ピラミッドの下では、生産年齢人口（15歳以上65歳未満の労働力の中心とされる人口）がどんどん増えていきますから、消費活動そのものも活発化していきます。大量のモノをつくっても片^{かた}つ端^{はし}から売れていき、万年モノ不足の状態になって、生産はどんどん拡大していきます。

こうした理由もあって、日本経済は戦後から1990年にバブル崩壊が起こるまでの間、右肩上がりの成長を続けていくことができたわけです。

人口がどんどん増えていく環境下では、黙っていても経済は拡大していきます。上りのエスカレーターに乗っているかのように、なにも考えなくても自動的に上昇することができました。生活はどんどん豊かになり、むしろ貧しくなることのほうが難しいくらいだったのです。

「普通の生活」など高嶺の花

では、現在の私たちは、どういう状況下に置かれているのでしょうか。

厚生労働省の人口動態統計によると、日本の人口は増えるどころか、2005年から人口減少時代に突入しています。2006年には5万1000人減少となり、2009年には7万5000人の自然減でした。今後も、日本の人口はどんどん減少していくと考えられています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2010年と比較すると2020年までには約440万人

の減少、2030年までには約1200万人近い減少と、凄まじい勢いで人口が減っていくとされています。

もつと事態を深刻なものにしているのが、15歳以上65歳未満のいわゆる生産年齢人口が大幅に減っていることです。

生産年齢人口は1996年からすでに減少傾向をたどっています。日本人の消費動向を調べると、人生で最もお金を使うのが45歳から55歳までの層。教育費や住宅費などの出費が重なるこの世代が減少傾向をたどれば、高度経済成長期とは逆に、経済がどんどん縮んでいくことになります。高度経済成長期が上りのエスカレーターなら、今は下りのエスカレーターに乗っているようなものです。

よく、「普通の生活ができれば、それでいいんです」と言う方がいます。この言葉は一般に、「あまり贅沢ぜいたくは言いません。自分はつまましい人間です」とアピールする意味で使われます。

バブルのころは、上昇志向が非常に強い方も大勢いましたが、今のような厳しい時代では、現実をきちんと見ているというか、必要以上に高望みしたりせずに「普通の生活」で十分と考える方が増えているのです。ところが問題は、下りエスカレーターの時代では、かつての「普通の生活」を望むこと自体、もはや「贅沢」だということなのです。

あなたにとつて、「普通の生活」とは、いったいどういうものでしょうか。